



* パッチワーク *
* キルト *



～ 物語の断片 ～

土岐 真扉

目次

- I. 『四界神話』の断片。
 - II. 『水の大陸』の断片。
 - III. 『大地世界物語』の断片
 - * うばやおこごと
 - IV. 『最終戦争』の断片
 - V. 『地球再生』の断片
 - * 女皇ペンギン
 - VI. 『エスパッション・シリーズ』の断片
 - VII. 『美麗天地』の断片
 - VIII. 『銀河の星の海』の断片
 - IX.
- などなど..... (いつになったら、書けるんでしょうか.....。)

うばやおこごと。

「ひめさま、いつまでも屋根の下にこもってないで！」

ばたん！ と勢いよく枝折り戸を押し開けて、皇女の乳母であるメリマアルがどかどかと部屋に入ってきました。

「子どもは外に出て、おはたで遊ぶのがお仕事ですよ！」

皇女の兄である皇子マリシアルが言い返しました。

「ぼくら白王家の人間にとっては、勉強も仕事のうちだよ」

「勉強！」

へん！ とメリマアルは鼻を鳴らしました。

「いい若いものが、こんな上天気の後午に、日陰にこもってだらくらおしゃべりするのがですか！」

「おいおい……」

威勢のいい乳母のいつもの調子に、失笑しながら膝の上に崩れ落ちたのは、その「だらくらおしゃべり」を繰り返していた、球地人の血を引く流れ商人のガトウイングです。

「そんなんだから、こういう怠け者に育ってしまうんです！」

びし！と、そのガトウイングを指して断言するメリマアル。

「そりゃないぜ、流れ商人ってのは、これでも大変な仕事なんだぜ！」

「ひとつのつくったものを、ただ右から左に運んでいるだけでしょうが！」

〈ごくまっとうな〉と自認する農婦出身のメリマアルは白王城下の育ちではないので、どうもいつまでたっても、都に出入りする〈うさんくさい〉連中とは、折り合いが悪いのです。

「とにかく、学問なんてえものは、もうちょっと大きくなられてからでよろしい！」

皇妃さまが何とおっしゃろうと、乳母のこの私が許しませんよ！ ひめさまは、もう、お外にいかれるお時間です！

」

腰に手を当てて踏ん張る若い乳母の一步も譲らないぞという剣幕に、皇子・皇女が三歳の時からつきっきりで教えを受けている教師連は、それぞれあきらめたように苦笑し、目を見交わして、授業の……じつのところたしかにただの「茶話会」と化していたのですが……の終了宣言を、受け入れたのでした。

皇妃ペンギン。

人類が引き起こした、いわゆる《最終戦争》の後、野生の鳥類は多くが絶滅したが、ペンギンの一部は巨大化し、過酷な環境に適応し、繁殖して増えた。

特に南極大陸に生き残った人間コロニー群によって養殖用の品種改良を重ねられた一種は、脳の大型化と同時に、飼い主である人間が群の管理を容易化するために知能も強化した結果、狡猾な演技力と同種間での高い伝達・連携の能力を獲得し、しばしば「収獲」の前夜に養殖用地下プールからの自主的な集団脱走を果たし、広大な雪原や断崖絶壁に適応して増えた。

知能が高く、プライドも高く、その肉は高脂肪で、毛皮も高価値であったため、品種によって「貴族ペンギン」「教皇ペンギン」「女帝ペンギン」「孔雀ペンギン」「白象ペンギン」「くじらペンギン」などと呼称された。

なかでも商品的な利用価値が高く、また、一部の人間によって宗教的価値まで付加され、なかば神格化された一種に、「皇妃（または女教皇）ペンギン」がある。

雄よりも雌のほうが知能と体格ともに優れ、その体長は実に2 m近くに達し、逃げ足は早く、狡知に優れ、幼鳥を守るためとあらば銃を構えた人間の群れや巨大なセイウチとの一騎打ちすら辞さない、果敢な戦闘力を持つ。

優美な外見からは想像もつかない機敏さと凶暴さを誇り、5～10羽程度の小単位で生活するのが常で、捕獲は極めて困難。しかしその肉は極めて美味で、骨格・脂肪・各種の臓器にはすぐれた薬効があるとされ、大変珍重された。

このペンギンを「始祖」とあがめる地元の人間族は、みずからを「鳥人の子孫」と称し、成人に達した狩人は、この皇妃ペンギンを捕獲することで一人前と認められ、最初に捕獲した成鳥の毛皮をまるごとはいで外衣に加工し、すっぽりとこれを被って成鳥ペンギンに化けることにより、他の若いペンギンの捕獲が有利に行えるのだった。

後年、地球《再統一》政府により、野生動物保護令が発動され、当該「子孫」族の伝統的狩猟以外の方法での捕獲、とくに密漁は、堅く禁じられ、厳罰が課せられた。

最終的には、地球本星が惑星としての寿命を迎える寸前まで、かなりの個体数が、種としての自然変遷を重ねながらも繁殖・存続し、惑星終末期においては《汎銀河協商》によって捕獲・保護のうえ、新しい環境に移された。

(『地球再生』の物語、「地誌／生物誌」)

(2012.02.08.昼)

パッチワーク・キルト ～物語の断片～

<http://p.booklog.jp/book/44110>

著者：土岐 真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44110>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44110>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.